

崇城大学（熊本市）公認の部活動、起業部から生まれたスタートアップのCiamo（シアモ）が製造・販売する農家向けの商品が注目を集めている。コメやレンコンなど水を張って栽培する作物の根腐れ防止に効果がある光合成細菌「くまレッド」だ。従来品より安価で、全国から注文が舞い込むという。

くまレッドは、社長で大学院博士課程（応用生命科学専攻）に在籍する古賀碧さんが開発した。光合成細菌は根腐れの原因となる水中の有害物質をエサとするため、肥料使用の軽減につながる。水田のほか、野菜の成長促進や収量アップにも効果があるという。

光合成細菌「くまレッド」—— 崇城大

水田の根腐れ防止、安価に

農業の場では以前から使われている光合成細菌だが、10㍊あたり5000円前後と高く、あまり浸透していなかったという。古賀さんは安く手に入る球磨焼酎の焼酎かすに着目。大学4年時の研究テーマに出身地の球磨地域の特産品を活用したいと考え、数千種類あるとされる細菌から培養に焼酎かすを好むものだけを選び出したという。

熊本県に大きな被害をもたらした7月豪雨では多くの球磨焼酎の蔵元も被災し、焼酎かすの調達が難しくなっていたが、11月から販売を再開する培養キットを使うと、10㍊あたり540円でできるといふ。有機野菜をつくる農家向けの新商品を年内に販売する計画もある。



「くまレッド」と開発者の古賀社長

2018年4月設立のシアモはインターネットやSNS（交流サイト）を活用して販路を拡大。古賀さんは「現在数百万円の売上高を28年までに1億円にしたい」と意気込む。新型コロナウイルスが収束したらアジアなど海外の農業支援にも目を向ける考えだ。